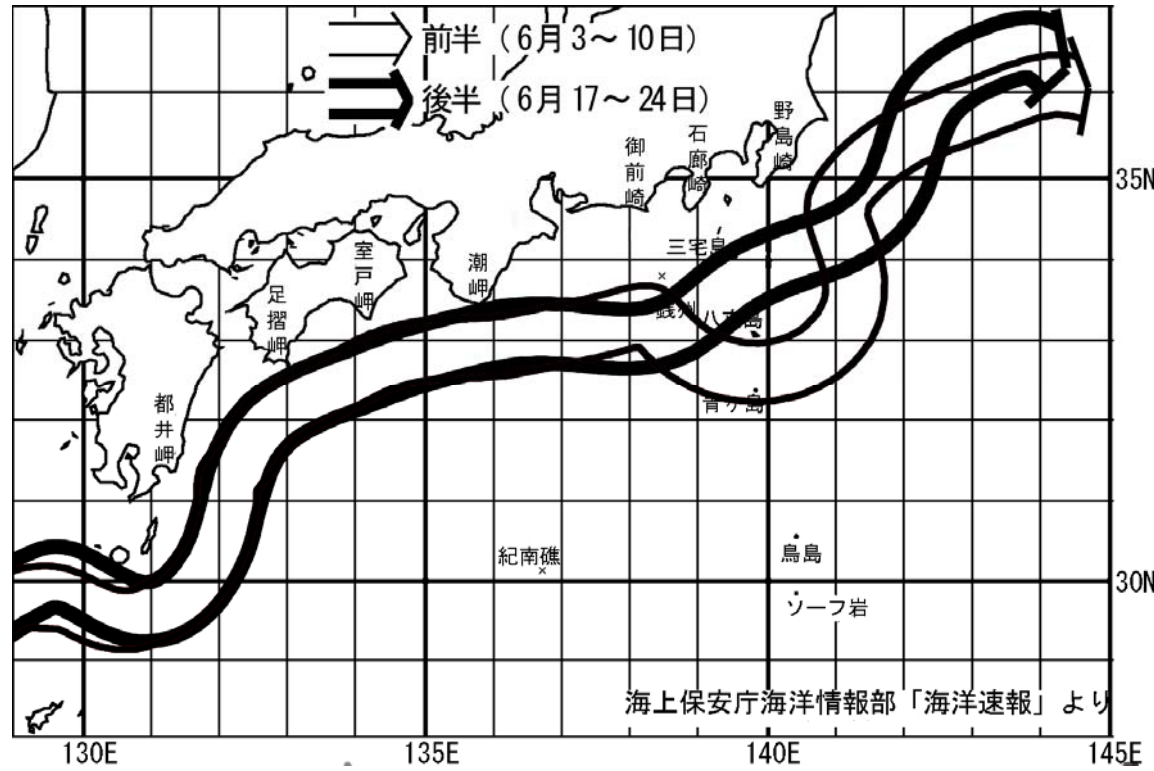


# 漁海況月報

平成24年 6月 1日

No. 6 ~6月30日

静岡県水産技術研究所  
(電話 054-627-1815)  
静岡県水産術研究所 伊豆分場  
(電話 0558-22-0835)



定地水温の旬平均値 (°C) (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上旬	20.5	20.1	20.0	20.1	20.9	21.0	21.1
	0.8	1.0	0.6	-0.4	0.2	0.4	0.9
中旬	20.4	20.8	20.2	21.5	21.6	21.2	21.0
	-0.1	1.2	0.4	0.2	0.1	0.1	0.1
下旬	20.7	21.3	20.6	22.4	22.6	22.7	22.3
	-0.6	0.6	-0.2	0.2	0.5	0.8	0.5
月	20.5	20.7	20.3	21.4	21.7	21.6	21.5
	0.0	0.9	0.3	0.0	0.3	0.5	0.5

## 【黒潮流路】

前半の黒潮は、当初は遠州灘沖の33.5° Nを東進し八丈島の南を通過して房総半島沖を離岸して流れた。その後、小蛇行は伊豆諸島の東に進み、後半には小蛇行は解消して直進流路となった。前半に熊野灘に発生した暖水波及は規模を拡大しながら遠州灘を東進し、後半には駿河湾に達した。

## 【県下沿岸域】

県下の定地水温は、上旬には相模湾側で「やや高め」、駿河湾で「やや高め」～「平年並」であったが、中～下旬はほぼ全域で「平年並」～「やや高め」となった。暖水波及による水温上昇の影響は大きくなかった。

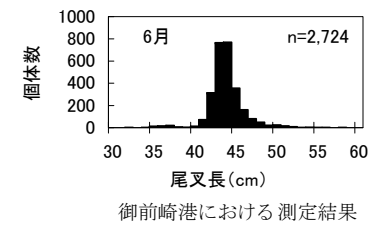
## 【竿釣近海カツオ】

県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海カツオの水揚量は68トで前年同期の24%であった。魚価は542円/kgで、前年同期を上回った。

静岡県近海では31°～34° N、138°～140° Eのスミス島から三宅島にかけて小・極小(尾叉長44cmモード)、チン(尾叉長37cmモード)カツオを漁獲した。

竿釣りカツオ水揚量 (近海・沿岸、県内主要5港)

期間	水揚量 (トン)	水揚隻数	水揚/隻 (トン)	平均単価 (円/kg)
24年 6月上旬	15	6	2.5	732
中旬	20	4	5.0	587
下旬	33	13	2.5	425
24年 6月計	68	23	3.0	542
23年 6月計	289	48	6.0	361
22年 6月計	144	39	3.7	387



## 【定置網】

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚量は720トンで、前年同期の同漁場の水揚量(712トン)と同量、平年(昭和57～平成23年)427トンの1.7倍の量となった。

魚種別では、①マルソウダ425.0トン②イナダ120.2トン③サバ類58.3トン④マアジ21.7トン⑤ワラサ19.1トンの順に水揚げされた。

マルソウダは、尾叉長で30～40cmの大きさのものが古網、北川漁場を中心に前年の4.7倍、平年の13.3倍の量が、イナダは尾叉長で38～47cmの大きさのものが伊豆山、古網漁場を中心に前年の2670倍、平年の39.8倍の量が、ワラサは尾叉長で60～75cmの大きさのものが川奈、伊豆山漁場を中心に前年の9.5倍、平年の2.1倍の量がそれぞれ水揚げされた。

また、サバ類は尾叉長で30～38cmのゴマサバを主体として、マアジは尾叉長で17～27cmの大きさのものが水揚げされたが、その量は両者とも前年、平年を大きく下回った。

漁場別では、古網227トン(マルソウダ、イナダ、サバ類主体)、北川158トン(マルソウダ、イナダ、サバ類主体)、川奈128トン(マルソウダ、イナダ、ワラサ主体)の順に水揚げ量が多かった。

魚種	漁獲量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
マルソウダ	425.0	4.7	13.3	古網、北川、川奈
イナダ	120.2	2670	39.8	伊豆山、古網、川奈
サバ類	58.3	0.2	0.5	古網、伊豆山、北川
マアジ	21.7	0.4	0.2	川奈、北川、富戸
ワラサ	19.1	9.5	2.1	川奈、伊豆山、富戸

**【サバたもすくい・棒受網】**

小川港には、棒受網によってゴマサバ695トン（前年同月比79%）が水揚げされた。1隻あたり水揚量は31.6トン/隻（前年同月比118%）であった。平均単価は52円/kgで前月（46円）を上回ったが、前年同月（58円）を下回った。

棒受網の漁場は三本、三宅に形成され、ゴマサバ主体で27cmモードの1歳魚（2011年級群）が主体であった。

小川港 サバ類（たもすくい・棒受網）水揚量

期 間	水揚量(トン)		水揚 日数	水揚 隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
24年6月上旬	0	139	2	4	0	34.7	0	49	汰 迄
中旬	0	326	4	10	0	32.6	0	50	汰 迄
下旬	0	230	4	8	0	28.7	0	56	汰 迄
24年6計	0	695	10	22	0	31.6	0	52	
23年6月	1	880	11	33	0.0	26.7	450	58	汰 迄、大 船 橋
22年6月	3	826	12	35	0.1	23.6	253	66	汰 迄、船 橋

\*水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

**【サクラエビ船曳網】**

平成24年春漁は、6月7日夜で終漁となった。6月は3日間の操業で102トンの水揚げがあり、漁場は主に富士川から由比沖と焼津から大井川沖に形成された。

漁期を通してみると、操業日数は21日と天候不順で出漁が少なかった前年春漁の13日と比べ8日上回った。水揚量は944トンと前年春漁の721トンより、223トン多かった。

平均単価は1,812円/kgと、前年春漁の3,085円/kgを下回った。水揚金額についても17.1億円と、前年春漁（22.3億円）を下回った。

サクラエビ水揚量

期 間	水揚量 (トン)	日数	1日1か統当り 平均(kg)	漁 場
平成24年6月 上旬	102	3	平均 567	富士川～由比、焼津～大井川
平成24年春漁 計	944	21	平均 750	田子の浦～三保、焼津～大井川
平成23年春漁 計	721	13	平均 924	沼津～富士川
平成22年春漁 計	640	15	平均 711	沼津～由比、大井川～吉田

**【シラス船曳網】**

1日1か統当りの水揚量は、駿河湾が301kg、遠州灘が360kgであった。主要6港平均の1日1か統当りの水揚量は341kgと前年同期(458kg)の74%、平年同期（過去5か年平均：570kg）の60%と前年同期、平年同期を下回った。また、総水揚量は727.8トンで前年同期(792.3トン)の92%、平年同期（1201.5トン）の61%と、前年同期、平年同期を下回った。平均単価は1,087円/kgと平年同期（496円/kg）を上回った。

シラス水揚量（主要6港）

漁 港	水揚量(トン)	延日数	延続数	平均漁獲量 (kg/統)	平均単価 (円/kg)
新 居	48.9	13	168	291	1,000
舞 阪	261.4	15	706	370	1,011
福 田	149.2	14	378	395	1,062
御前崎	59.0	19	190	311	1,104
吉 田	117.0	19	429	273	1,209
静 岡	92.4	13	266	347	1,227
平成24年6月計	727.8	93	2,137	341	1,087
平成23年6月計	792.3	79	1,730	458	437
平成22年6月計	793.3	105	2,494	318	671

※各港の数値は四捨五入しているため、各港合計と月計の値は一致しない場合がある。

平年同期：過去5か年(2007～2011年)平均値

**【まき網】**

小川港のマイワシの水揚げは0.1トンで平年同期（34.3トン）の0.3%であった。沼津港では、マイワシの水揚げがほとんどなく（0.04トン、平年同期は186.7トン）、カタクチワシの水揚げは15.6トンで平年同期（39.8トン）の39%であった。静浦港のマイワシの水揚げはなく（平年同期7.5トン）、カタクチワシの水揚げは86.4トンで平年同期（178.7トン）の48%であった。伊東港ではマイワシの水揚げはなかった（平年同期57.6トン）。

注）平年同期：過去5か年(2007～2011年)平均

**【調査船の動向】**

駿 河 丸

6月 4日	～	6月 5日	地先定線観測	(2日間)
6月 7日	～	6月 8日	シラス/ハダカイワシ調査	(2日間)
6月 11日	～	6月 15日	カツオ魚群分布調査	(5日間)
6月 18日			公共用水域水質測定調査	(1日間)

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAの海面水温分布画像と

関東・東海海況速報を見ることができます。

